

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和 4 年 2 月 3 日

公表:令和 4 年 3 月 31日

事業所名 児童発達支援センター向島あづみ(放課後等デイサー

		チェック項目	はい (%)	いいえ (%)	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100			
	2	職員の配置数は適切である	100			・情報共有する時間が増えるので正規職員を増やす 余剰が予測される場合、事前周知がある方が望ましい ・今後、異なる特性のある利用児が増えると人員不足となり得る
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100			・バリアフリー化の配慮を必要とする利用児の在籍がない
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80	20		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	60	40	要望に応えたケースもある	・意向にの改善に時間を要することや実施が難しい事がある
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	60	40		・体制としては整っているが、評価結果を知らされたことはない
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100		研修は必要最低限実施している	・個々の要望に添える研修が必要 ・職員主体で勉強会を行う予定
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	80	20		・職員間で差がある
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100			・ツールの項目が大まかなので、もっと具体的な項目がある物を使いたい ・統計学的な意味での標準化はされていない
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	80	20		・心理士が立案した物をチームで検討して立案している ・活動内容の大半がニーズに応じたオリジナリティの高いものである
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100			・週替わりで活動が変わる ・ねらいは週単位や月単位で繋がりを持たせている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	80	20		集団活動のみ
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	60	40		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	60	40		就労時間の絡み、翌日に打ち合わせを実施
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	60	40		可能な限り、活動の振り返り内容を記録をする記録はしているが、支援の改善には到達していない
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	60	40		サービス担当者会議が実施されていない
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100			月に1回、各学校の行事予定表を確認している 下校時刻は、事前に学校より知らせがある
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			受け入れていない	・受け入れていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	80	20	実施継続中	・実施継続中
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	80	20		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80	20		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	40	60		・各家庭が各々児童クラブの利用など必要に応じて行っている ・ほとんどの児童が地域の学校に通学している ので児童間の交流がある
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100			
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	60	40		・公に参加を呼びかけることはしていないが個別に相談があった場合には助言を行う事はある
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	80	20	必要に応じて実施	・相談要望のあった家庭に支援を実施
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	20	80		・一定以上のニーズがあれば開催を検討したい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	40	60		・対応ができず利用の中止に繋がった可能性がある ので、望ましい対応をめざしていきたい
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100			
	35	個人情報に十分注意している	80	20		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	20	80		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	40	60		職員間では行われている
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	60	40		利用日によっては参加できない児童もいるので、年間計画に曜日を配慮して決定する
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100			年に1回程度の研修があるが、不足と感じている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	60	40		保護者からの指示、依頼で実施
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	60	40		

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和4年 3月 31日

アンケート期間:令和4年 1月 17日～令和 4年 2月 6日

事業所名:児童発達支援センター向島あづみ

保護者等数(児童数:37(34家庭) 回収数:20 割合 59%

	チェック項目	はい (%)	どちらともいえない (%)	いいえ (%)	わからない (%)	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	85	5		10	・とても広く勉強や絵を書く部屋遊ぶ部屋と分けられていていいですね。	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	75	10		15	・出来れば言語聴覚士の先生や心理の先生も関わりを持ってほしい。 ・内容が難しいときは個別で対応して頂き助かります。	・臨床心理士が配置されている事を周知する。可能であればどのような関わりを求めているのか具体的に把握する。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	60	25	5	10	・よくわからない。	
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	90	5		5	・こちらの思いや家族での様子など聞いて考えて頂きありがたいです。	
	5 活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	90	5		5	・いつも魅力的な活動を考えて支援して下さってありがとうございます。 ・いつも子供の興味を持ってそうな内容をすぐ考えて下さっていると思う。 ・プログラムの内容が面白く魅力的です。	
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	25	20	10	45	・今は、コロナのせいではない。 ・そういった活動をしたいと言う連携をされた記憶がありません。	・地域の学校に通っている子は日頃から交流があるが、長期休みなどを利用して外部との交流が生まれる活動を設定していきたい。
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	90	5	5		・しっかり説明していただきました。	
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	90		5	5	・迎える時に伝えあう時間があり助かります。安心です。	
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	90	5	5			
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	30	25	15	30	・コロナ対策で止むを得ない事だと思えます。 ・コロナ禍なので仕方ないのかもしれませんが。	・コロナの状況を見ながら、保護者のニーズを把握して必要であれば実施したい。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	75			25		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	85	5		10		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	90			10		
14 個人情報に十分注意しているか	100						
非常時等の対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	80	5	5	10		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	75	5		20		

満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	80	10	5	5	
	18	事業所の支援に満足しているか	95	5			・こちらの話をしっかりと聞いて下さり対応していただいています。

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。